

安全データシート

ページ: 1/18

BASF 安全データシート

日付 / 改訂: 30. 09. 2025

製品: ACRYLIC ACID CRUDE

バージョン: 10.0

(30041216/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 16.10.2025

1. 化学品及び会社情報

品名:

ACRYLIC ACID CRUDE

用途: モノマー

避けるべき用途: 全ての消費者による使用は強く避けるべきである。、コーティングに含まれる物質用途(業務用)、インクおよびトナーに含まれる物質用途(業務用)

推奨用途: 工業的用途のみに使用のこと。

非推奨用途: 化粧品、医薬品

供給者の会社情報、住所及び電話番号:

BASFジャパン株式会社

東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号

0V0L 日本橋ビル 3階

電話番号: +81-3-5290-3000

Eメールアドレス: Japan-SDS-Info@basf.com

緊急連絡先:

電話番号: 03-6634-2245

+49 180 2273-112 (International emergency number)

2. 危険有害性の要約

【化学品のGHS分類】:

急性毒性: 区分4 (吸入-蒸気)

急性毒性: 区分4 (経口)

水生環境有害性 長期(慢性): 区分2

水生環境有害性 短期(急性): 区分1

BASF 安全データシート
日付 / 改訂: 30. 09. 2025
製品: **ACRYLIC ACID CRUDE**

バージョン: 10.0

(30041216/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 16.10.2025

引火性液体: 区分3
眼に対する重篤な損傷: 区分1
皮膚腐食性: 区分1A

M-ファクター急性: 1

【GHSラベル要素】:

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:
危険

危険有害性情報:

H226	引火性液体及び蒸気。
H314	重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷。
H302 + H332	飲み込んだ場合や吸入した場合は有害。
H411	長期継続的影響によって水生生物に毒性。
H400	水生生物に非常に強い毒性。

注意書き（安全対策）:

P271	屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
P280	保護手袋と保護衣と保護眼鏡または保護面を着用すること。
P273	環境への放出を避けること。
P260	粉じん/ガス/ミスト/蒸気を吸入しないこと。
P210	熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P243	静電気放電に対する措置を講ずること。
P241	防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
P270	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P264	取扱い後は汚染された体の部分をよく洗うこと。
P233	容器を密閉しておくこと。
P242	火花を発生させない工具を使用すること。
P240	容器を接地しアースをとること。

注意書き（応急措置）:

P310	直ちに医師に連絡すること。
P305 + P351 + P338	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P304 + P340	吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P303 + P361 + P353	皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣服をすべて取り除くか脱ぐこと。皮膚を水またはシャワーで洗い流すこと。
P301 + P330 + P331	飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
P363	汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
P391	漏出物を回収すること。
P370 + P378	火災の場合：消火に水、粉末消火剤、泡もしくは二酸化炭素を使用すること。

注意書き（保管）：

P405	施錠して保管すること。
P403 + P235	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

注意書き（廃棄）：

P501	適切に分別した内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理業者に廃棄を委託すること。
------	---

GHS分類に関係しない又は GHS で扱われない他の危険有害性:

この項に、有効な情報の記載がある場合、それは、GHS分類の結果ではなく、物質もしくは混合物の総合的な危険性に寄与する可能性があるGHS分類以外の危険性に関するものである。

12章のPBT（難分解性、生物蓄積性、毒性を有する物質）とvPvB（難分解性と生物蓄積性が極めて高い物質）の評価結果を参照。

3. 組成及び成分情報

化学特性

化学物質・混合物の区別: 単一製品

アクリル酸 (含有量 (W/W): $\geq 99\%$)
CAS RN: 79-10-7
化審法: (2)-984
労働安全衛生法: (2)-984

GHS分類に寄与する成分

アクリル酸

含有量 (W/W): $\geq 99\%$ - 100 %

CAS RN: 79-10-7

化審法: (2)-984

労働安全衛生法: (2)-984

急性毒性: 区分 4 (吸入-蒸気)

急性毒性: 区分 4 (経口)

水生環境有害性 長期(慢性): 区分 2

水生環境有害性 短期(急性): 区分 1

引火性液体: 区分 3

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性: 区分 1

皮膚腐食性/刺激性: 区分 1A

M-ファクター急性: 1

酢酸

含有量 (W/W): $< 0.2\%$

CAS RN: 64-19-7

労働安全衛生法: (2)-688

引火性液体: 区分 3

皮膚腐食性/刺激性: 区分 1A

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性: 区分 1

マレイン酸

含有量 (W/W): $< 0.03\%$

CAS RN: 110-16-7

化審法: (2)-1100

労働安全衛生法: (2)-1100

急性毒性: 区分 4 (経口)

急性毒性: 区分 4 (経皮)

皮膚腐食性/刺激性: 区分 2

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性: 区分 2A

皮膚感作性: 区分 1

特定標的臓器毒性 (単回暴露): 区分 3 (呼吸器系を刺激する)

水生環境有害性 短期(急性): 区分 3

無水マレイン酸

含有量 (W/W): $< 0.001\%$

CAS RN: 108-31-6

化審法: (2)-1101

労働安全衛生法: (2)-1101

急性毒性: 区分 4 (経口)

皮膚腐食性/刺激性: 区分 1B

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性: 区分 1

皮膚感作性: 区分 1A

呼吸器感作性: 区分 1

特定標的臓器毒性 (反復暴露) (呼吸器系): 区分 1 (吸入による)

水生環境有害性 短期(急性): 区分 3

2-プロペナール (別名 アクロレイン)

含有量 (W/W): < 0.0015 %
CAS RN: 107-02-8
化審法: (2)-521
労働安全衛生法: (2)-521

引火性液体: 区分 2
急性毒性: 区分 1 (吸入-蒸気)
急性毒性: 区分 2 (経口)
急性毒性: 区分 3 (経皮)
皮膚腐食性/刺激性: 区分 1B
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性: 区分 1
水生環境有害性 短期(急性): 区分 1
水生環境有害性 長期(慢性): 区分 1
M-ファクター急性: 100
M-ファクター慢性: 1

4. 応急措置

[応急措置をする者の保護に必要な注意事項]:

救急隊員は自身の安全に注意を払うこと。患者が意識を失いそうになったら、横向き（回復体位）で安静に寝かせ、搬送する。汚れた衣服は直ちに置き替える。

[吸入した場合]:

安静にし、新鮮な空気のある場所へ移動させ、医師の診察を受けること。直ちにコルチコステロイドエアゾール製剤を吸入すること。

[皮膚に付着した場合]:

直ちに水で十分に洗い流した後無菌包帯を巻き、医師の診察を受ける。

[眼に入った場合]:

直ちにまぶたを開き流水で15分以上洗い流した後、眼科医の診察を受ける。

[飲み込んだ場合]:

嘔吐を生じさせないようにする。直ちに口をすすぎ、200-300mlの水を飲み、医師の診察を受ける。

[医師に対する特別な注意事項]:

症状: 情報、すなわち症状および影響に関する追加情報は、2章で利用可能なGHSラベルのフレーズ及び11章で利用可能な毒性評価に含まれる。

危険有害事項: 肺水腫の危険性あり。症状は後から現われる可能性がある。

情報、すなわち症状および影響に関する追加情報は、2章で利用可能なGHSラベルのフレーズ及び11章で利用可能な毒性評価に含まれる。（他の）症状や影響については現時点で知られていない。

処置: 症状に応じて処置（洗浄・機能回復）を講じる。特に解毒剤なし。

5. 火災時の措置

[適切な消火剤]:

粉末、噴霧水、二酸化炭素、泡

[使ってはならない消火剤]:

棒状放水

[追加情報]:

周囲の環境に適した消火方法をとること。

[火災時の特有の危険有害性]:

容器が過熱されると激しい自己重合を起こす。容器を噴霧水で冷却する。

本品は可燃性である。製品安全データシートの第7項の取り扱い及び保管上の注意を参照すること。

[消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置]:

自給式呼吸器を着用のこと。消防士のための特別な保護具

[追加情報]:

消火対策を周囲に拡張する。消火作業は可能な限り火から離れて行うこと。蒸気は大気より重いため、地表面に滞留し、遠い距離にある発火源まで達することがある。

[追加情報]:

近くで火災が発生した場合、バルク貯蔵タンク内の温度が45° Cに達した場合は、再安定化システムを使用する必要がある。関係者以外を立ち入り禁止。近くで火災が発生した場合、バルク貯蔵タンク内の温度が60° Cに達した場合は、より広いエリアのすべての人員を避難させてください。

[追加情報]:

汚染された消火廃水は法令に従って適切に処分する。

6. 漏出時の措置

[人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置]:

労働安全衛生に関する実施基準に従い、取り扱うこと。

あらゆる着火源（熱、スパーク、裸火など）を近づけない。帯電防止器具を使用すること。皮膚、眼、衣服への接触を避ける。

すべての汚染された衣類は直ちに脱がせること。

[環境に対する注意事項]:

許可が得られないかぎり、排水溝に流出させない。容器に汚染水／消火用水を取り集める。

[封じ込め及び浄化の方法及び機材]:

大量の場合: ポンプで容器に回収する。

こぼれた製品は回収し、固化させ、廃棄用の適切な容器に入れる。法令に従って吸着剤を廃棄すること。十分な換気を確保すること。噴霧水により、ガス／蒸気／ミストを鎮圧すること。水および洗剤を用いて、汚染された床および物質を完全に浄化すること。環境法令を遵守すること。清掃作業は、呼吸保護具を着用して行なうこと。適切な器具を用い回収し、廃棄すること。

[追加情報]: 漏出／流出により床が滑りやすくなるので注意する。

物質／製品の放出は火災又は爆発を引き起こすことがある。漏出の原因を遮断又は停止させる。物質／製品の漏出は安全な条件下で遮断又は停止させること。

廃棄する為には固く閉めた容器に詰める。

7. 取扱い及び保管上の注意

[取扱い]

本品は、訓練を受けた者のみ取り扱うことができる。危険な反応を避けるために、定期的にポリマーの残留物に関する設備点検と清掃を行う。

作業場の換気を十分に行う。容器封入もしくは排気が必要。容器を充填、入れ換え又は空にする際には作業場を十分に換気する。適切なセパレーターを通してのみ、廃空気を大気に放出する。密閉状態とコネクターのネジ山をチェックする。温まった又は膨張した製品容器を開けないこと。周囲の人間を安全な場所に移動させて消防署に連絡すること。

回避すべき温度を考慮に入れる必要がある。加熱を避ける。直射日光を避ける。製品を光に当てない。

安定剤が分離する可能性がある為、製品は部分的に溶かしたり取り出してはならない。使用の前に、確実に、容器中に結晶化した製品がないようにする。結晶化した製品を完全もしくは部分的に溶かす前に、供給者／製造者から情報を得ること。製品を溶解したり、あるいは製品を適度な温度に保つとき、容器の外気温は記載された限界温度を超えることはない。

あらゆる着火源（熱、スパーク、裸火など）を近づけない。十分な阻害剤及び溶解酸素レベルを確保すること。

粉塵／ミスト／蒸気を吸入しない。エアゾールを発生させない。あらゆる直接接触を避けること。

安全取扱注意事項:

あらゆる着火源（熱、スパーク、裸火など）を近づけない。物質/製品は空気との間で爆発性の混合物を形成することがある。運搬機器にはアースをし、静電気防止措置をとる。あらゆる機械類の導電部にアースをすることが望ましい。この製品の充填及び処理が引火点を少なくとも5°C下回る温度で行われる場合には、防爆器具は不要である。

容器が加熱された場合、重合を避けるために冷却すること。火に暴露された場合は、噴霧水によって容器を冷却する。近隣火災の可能性に備えて緊急冷却措置を施す必要がある。

温度クラス: T3（自己発火温度: >300° C）。

[保管]

保管条件に関する追加情報: 貯蔵する前に、使用する移送装置や貯蔵容器に他の物質/製品が入っていないことを確実にする。貯蔵のために移送する前に、製品が同一であることを確実に確認する。保管場所への入室は、適切な訓練を受けた人のみ許される。

貯蔵のためには、不活性ガスラインが設置されているタンクを絶対に使用しない。

重合の危険性 加熱を避ける。直射日光を避ける。紫外線及びその他の高エネルギー放射線を避けること。汚染から保護すること。

バルク保管の場合、保管タンクには少なくとも2つの高温アラート装置が装備されている必要がある。結晶化は絶対に避けなければならない為、表示された最低温度以下で製品を保管してはならない。

たとえ製品を定められように貯蔵と取扱いを行っても、定められた期間内に使い切るようにする。

保管安定性:

保管温度: 15 - 35 ° C

保管期間: 12 月

所定の保管温度に留意すること。

長期保管を避けること。

この製品は可能な限り速やかに処理すること。

保管中、避ける事の出来ない二量化が生じる。保管温度を出来るだけ低くする事により、その反応率を減らすことが出来る。

結晶化範囲の上+2度の安全間隔を保つことが推奨されている。

保管温度: 45 ° C

バルク貯蔵タンク内の温度が指示値に達した場合は、再安定化システムを使用する必要がある。

保管温度: 60 ° C

バルク貯蔵タンク内の温度が指示値に達した場合は、より広いエリアのすべての人員を避難させる必要がある。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

酢酸, 64-19-7;

STEL (short term exposure limit : 短時間 15 ppm (ACGIHTLV)

TWA (time weighted average : 時間加重平均) 10 ppm (ACGIHTLV)

TWA (time weighted average : 時間加重平均) 25 mg/m³ ; 10 ppm (日本産業衛生学会 許容濃度)

STEL (short term exposure limit : 短時間 15 ppm (濃度基準値 (安衛則 第577条の2第2項))

施行日: 2025年10月1日

アクリル酸, 79-10-7;

TWA (time weighted average : 時間加重平均) 2 ppm (ACGIHTLV)

経皮吸収の表示 (ACGIHTLV)

経皮吸収の危険性

TWA (time weighted average : 時間加重平均) 2 ppm (濃度基準値 (安衛則 第577条の2第2項))

施行日: 2025年10月1日

2-プロペナール (別名 アクロレイン) , 107-02-8;

経皮吸収の表示 (ACGIHTLV)

経皮吸収の危険性

経皮吸収の表示 (ACGIHTLV)

経皮吸収の危険性

TWA (time weighted average : 時間加重平均) 0.23 mg/m³ ; 0.1 ppm (日本産業衛生学会 許容濃度)

CLV (ceiling limit value : 上限値) 0.05 ppm (ACGIHTLV)

CLV (ceiling limit value : 上限値) 0.1 ppm (濃度基準値 (安衛則 第577条の2 第2項))

施行日: 2024年4月1日

無水マレイン酸, 108-31-6;

TWA (time weighted average : 時間加重平均) 0.01 mg/m³ (ACGIHTLV), 吸入可能留分及び蒸気

CLV (ceiling limit value : 上限値) 0.8 mg/m³ ; 0.2 ppm (日本産業衛生学会 許容濃度)

TWA (time weighted average : 時間加重平均) 0.4 mg/m³ ; 0.1 ppm (日本産業衛生学会 許容濃度)

TWA (time weighted average : 時間加重平均) 0.08 mg/m³ (濃度基準値 (安衛則 第577条の2第2項))

施行日: 2025年10月1日

[設備対策]

システム設計に関する助言:
十分な換気を確保すること。

【保護具】

[呼吸用保護具]:

低濃度において、または短時間有効な適切な呼吸保護具: 有機化合物 (沸点65°C以上) のガス/蒸気用ガスフィルター EN 14387 A型

[手の保護具]:

長時間の直接接触でも問題ない素材 (保護指針6に準ずることが望ましい。EN ISO 374-1によると、透過時間は480分以上であること。) :

ブチルゴム (ブチル)、肉厚0.7 mm

種類が多岐にわたるため、製造業者が指示した方法を遵守すること。

補足: 仕様は、試験、文献データ及び手袋製造業者の情報に基づくもの、あるいは類似の物質から類推されたものである。条件が多いため (温度など)、耐薬品性保護手袋の実際の使用時間は試験で別途得られた物質透過時間よりもかなり短いと考えなければならない。

[眼の保護具]:

密着性安全ゴーグル (飛沫よけ型ゴーグル)

[皮膚及び身体の保護具]:

作業および予想暴露量に基づいて、保護具を選択すること。前掛け、保護靴、耐薬品性保護衣等（飛散の場合は、EN 14605に従い、粉塵の場合は、EN ISO 13982に従う。）。、帯電防止性保護靴（EN 20346 準拠）

[一般的な安全及び衛生対策]:

皮膚、眼、衣服への接触を避ける。蒸気を吸入しない。所定の保護具に加えて、上下一体型作業衣の着用が必要である。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態:	液体
色:	淡黄色～暗褐色
臭い:	酢のような臭い
臭いのしきい値:	測定されていない。
pH:	2 (約 70 g/l, 20 ° C) 文献データ
pKA:	4.26 (25 ° C)
融点:	13 ° C 文献データ
沸点:	141 ° C (1,013 hPa) 文献データ
引火点:	48.5 ° C (DIN 51755, 密閉式)
蒸発率:	値は、ヘンリー則定数もしくは、蒸気圧から類推することができる。
可燃性 (固体/ガス):	引火性液体及び蒸気。 (引火点から導きだした)
爆発下限界:	(大気) (46 ° C) この物質/混合物の下限の発火点は決まっている。この発火点は、空気との混合飽和蒸気の濃度が爆発限界の下限と等しくなる時の可燃性液体の温度を示している。
爆発上限界:	分類と表示に関連しない液体に関するものである。
自然発火温度:	438 ° C

BASF 安全データシート
日付 / 改訂: 30. 09. 2025
製品: **ACRYLIC ACID CRUDE**

バージョン: 10.0

(30041216/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 16.10.2025

熱分解:	通常の取扱い条件下で危険分解物なし。	
自己発火性:	自己分解性を示さない。 構造特性から、この製品は、自己発火性に分類されない。	試験の種類: 室温において自然発生する自己発火性。
自己発熱性:	該当しない、製品は液体である。	
SADT:	GHSによれば、自己分解し易い物質/混合物ではない。	
爆発危険有害事項:	化学構造に基づき、爆発性の性質を示すものはない。	
火災を引き起こす性質:	構造的特长に基づき、製品は酸化剤に分類されない。	
蒸気圧:	5. 29 hPa (25 ° C) 文献データ	
密度:	1. 05 g/cm ³ (20 ° C) 文献データ	
	1. 0161 g/cm ³ (50 ° C)	(OECDテストガイドライン 109)
相対密度:	1. 05 (20 ° C) 文献データ	
相対ガス密度 (空気) :	2. 48 (20 ° C) 空気より重い。	(算出)
水に対する溶解性:	混合可, 文献データ (25 ° C)	
溶解度 (定性的) 溶媒:	有機溶媒 混合可	
n - オクタノール/水分分配係数 (log Pow) :	0. 46 (25 ° C)	(OECDテストガイドライン 107)
吸着/水-土壌:	KOC: 約 42. 8; log KOC: 約 1. 6	(OECDテストガイドライン 106)
表面張力:	69. 6 mN/m (20 ° C; 1 g/l)	(EU指令 92/69/EEC, A. 5, OECD harmonized ring method)
粘度:	1. 149 mPa. s (25 ° C) 文献データ	
動粘性率:	(20 ° C) 測定されていない。	

モル質量: 72.06 g/mol

10. 安定性及び反応性

[避けるべき条件]:

加熱を避ける。紫外線及びその他の高エネルギー放射線を避けること。直射日光を避けること。長期保管を避けること。阻害剤の消失を避けること。過温を避けること。あらゆる着火源（熱、スパーク、裸火など）を近づけない。凍結を避けること。湿気を避けること。結晶化する温度を避ける。

熱分解: 通常の取扱い条件下で危険分解物なし。

熱分解: 自己分解性を示さない。

[混触危険物質]:

ラジカル発生物, フリーラジカル開始剤, 過酸化物, メルカプタン, ニトロ化合物, 過ホウ酸塩, アジド類, エーテル, ケトン類, アルデヒド類, アミン類, 硝酸塩類, 亜硝酸塩類, 酸化剤, 還元剤, 強塩基, アルカリ反応性物質, 酸無水物, 酸クロライド, 濃縮鉱酸, 金属塩
不活性ガス

金属の腐食: 水や湿気の中で、金属を腐食する。

[危険有害な分解生成物]:

爆発および火災の危険は、限定された条件下で起きる。この製品を引火点を超える温度まで加熱する及び/又はスプレーあるいは霧状にすると発火性の空気混合物が形成されることがある。爆発性のガス／空気混合物を形成する。

発熱を伴う重合。

加熱やUV照射により、自然重合を起こす恐れがある。インヒビターが消失するか、製品が過剰な温度に曝されると自然発生の激しい自己重合が起こる危険性がある。重合は、密閉容器を破裂させるガスを発生する。反応して発火することがある。

ラジカル連鎖反応の開始剤（過酸化物など）存在下における自然重合の危険性。硝酸と反応する。酸化剤の存在下で自然重合の恐れがある。

前述の回避物質と接触して生じる危険有害反応。

本品は、自然重合を防ぐために安定化された後、出荷される。製品は取扱説明書に従って貯蔵すれば安定である。

[危険分解物]:

通常の取扱い条件下で危険分解物なし。

化学安定性:

製品は取扱説明書に従って貯蔵すれば安定である。

反応性:

指示通りの貯蔵と取扱い条件下では有害な反応は起こさない。

11. 有害性情報

ばく露経路

急性毒性の評価

短期間の吸入により中程度の毒性。単回摂取後、中程度の毒性を示す。単回の皮膚付着であれば、実質上毒性はなし。

症状

情報、すなわち症状および影響に関する追加情報は、2章で利用可能なGHSラベルのフレーズ及び11章で利用可能な毒性評価に含まれる。

刺激性

刺激性作用の評価:

腐食性。皮膚及び眼を損傷する。

実験または計算によるデータ:

皮膚腐食性／刺激性 ウサギ: 腐食性 (OECDテストガイドライン404)

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 ウサギ: 回復不可能な損傷 (BASF試験)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

感作性の評価:

動物実験では、皮膚感作性は認められなかった。

実験または計算によるデータ:

Freund完全アジュバント試験 (FCA) モルモット: 感作性なし

生殖細胞変異原性

変異原性の評価:

数多くの試験（バクテリア／微生物／培養細胞）においては、変異原性は認められなかった。In vivo試験においても、変異原性は認められなかった。

発がん性

発がん性の評価:

多くの長期発癌性試験の結果を考慮すると、この物質自体が発癌性物質であるという証拠はない。IARCグループ3（ヒト発ガン性物質として分類されない）。

生殖毒性

生殖毒性の評価:

動物実験の結果から、生殖能力低下は認められなかった。

発生毒性

催奇形性の評価:

動物実験では、発生毒性／催奇形性は認められなかった。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

利用できる情報に基づくと、単回ばく露後に予測される特定標的臓器毒性はない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

反復投与毒性の評価:

反復投与後にみられる顕著な影響は局所の刺激である。

誤えん有害性

適用せず

12. 環境影響情報

生態毒性

魚類に対する毒性:

LC50（半数致死濃度）（96 h）27 mg/l, ニジマス（学名：Salmo gairdneriまたはOnc (EPA 72-1, 流水式）

毒性に関する記述は、実測濃度による。

水生無脊椎動物:

EC50（48 h）95 mg/l, オオミジンコ（学名：Daphnia magna）（ミジンコ急性試験, 流水式）

毒性に関する記述は、実測濃度による。

水生植物:

EC50（72 h）0.13 mg/l（成長率）, 緑藻（学名：Scenedesmus subspicatus）（92/69/EEC, C. 3, 止水式）

毒性作用の詳細は設定濃度に関係する。

EC10（10%影響濃度）（72 h）0.03 mg/l（成長率）, 緑藻（学名：Scenedesmus subspicatus）（92/69/EEC, C. 3, 止水式）

毒性作用の詳細は設定濃度に関係する。

微生物/活性汚泥への影響:

EC20（20%影響濃度）（0.5 h）900 mg/l, 家庭廃水由来の活性汚泥（DIN EN ISO 8192, 水生の）

名目濃度

魚類に対する慢性毒性:

無影響濃度（45 日） \geq 10.1 mg/l, メダカ（学名：Oryzias latipes）（OECDテストガイドライン 210, 流水式）

水生無脊椎動物に対する慢性毒性:

無影響濃度 (21 日), 3.8 mg/l, オオミジンコ (学名: *Daphnia magna*) (OPP 72-4 (EPA-ガイドライン), 流水式)

毒性に関する記述は、実測濃度による。

陸生生物に対する毒性の評価:

土壌生物:

無影響濃度 (28 日) 100 ppm, その他の土壌に住む微生物 (OECD 217, 人工土壌)

LC50 (半数致死濃度) (14 日) > 1,000 mg/kg, シマミミズ (学名: *Eisenia foetida*) (EU指令 88/302/EEC, part C, p. 95, 人工土壌)

陸生植物:

データなし。

その他の陸生非哺乳動物:

データなし。

移動性

環境区分間の輸送評価:

水面から大気中に揮発しない。

土壌の固相には吸着しないと考えられる。

残留性・分解性

除去情報:

90 – 100 % DOC減少 (9 日) (OECDテストガイドライン301A (新試験法)) (好気性, 家庭廃水由来の活性汚泥、未順化)

水中での安定性評価:

物質は水と接触すると徐々に加水分解される。

水中における安定性に関する情報 (加水分解):

$t_{1/2}$ > 365 日 (25 ° C), (OECDテストガイドライン 111, pH 7)

生体蓄積性

生体蓄積性の可能性評価:

生物体内に蓄積しない。

生体蓄積性:

生物濃縮係数: 3.16, その他 (算出)

[追加情報]

その他の環境毒性情報:

水生生物に対し極めて毒性 (急性毒性) がある。

BASF 安全データシート
日付 / 改訂: 30. 09. 2025
製品: ACRYLIC ACID CRUDE

バージョン: 10.0

(30041216/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 16.10.2025

13. 廃棄上の注意

地方自治体の規則に従って、適切な焼却施設に依頼する。

[汚染された容器]:

汚染された容器は製品と同様に廃棄する。

14. 輸送上の注意

国際陸上輸送:

国連番号もしくはID番号: UN 2218
品名 (国連輸送名): アクリル酸 (安定剤入りのもの)
国連分類 (輸送における危険有害性クラス): 8, 3, EHS
容器等級: II
環境有害性: 該当

使用者への特別注意事項: 知見なし

海上輸送

IMDG

国連番号もしくはID番号: UN 2218
品名 (国連輸送名): アクリル酸 (安定剤入りのもの)
国連分類 (輸送における危険有害性クラス): 8, 3, EHS
容器等級: II
環境有害性: 該当
海洋汚染物質: 該当

使用者への特別注意事項: EmS: F-E; S-C

Sea transport

IMDG

UN number or ID number: UN 2218
UN proper shipping name: ACRYLIC ACID, STABILIZED
Transport hazard class(es): 8, 3, EHS
Packing group: II
Environmental hazards: yes
Marine pollutant: YES
Special precautions for user: EmS: F-E; S-C

航空輸送

IATA/ICAO

国連番号もしくはID番号: UN 2218
品名 (国連輸送名): アクリル酸 (安定剤入りのもの)
国連分類 (輸送における危険有害性クラス): 8, 3
容器等級: II
環境有害性: 環境に対する有害性

Air transport

IATA/ICAO

UN number or ID number: UN 2218
UN proper shipping name: ACRYLIC ACID, STABILIZED
Transport hazard class(es): 8, 3
Packing group: II
Environmental hazards: No Mark as

BASF 安全データシート

日付 / 改訂: 30. 09. 2025

製品: ACRYLIC ACID CRUDE

バージョン: 10.0

(30041216/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 16.10.2025

の表示は必要ない

dangerous for the
environment is
needed

None known

使用者への特別注意事
項:

知見なし

Special precautions for
user:**IMO機器によるバルクの海上輸送****Maritime transport in bulk according to
IMO instruments**

該当法規: IBC-Code

品名: Acrylic acid

汚染の種類: Y

船舶型: 2

Regulation: IBC-Code

Product name: Acrylic acid

Pollution category: Y

Ship Type: 2

指針番号: 132P

国内輸送規制はSDSの15章を参照のこと。

15. 適用法令

消防法: 第4類, 第2石油類, 水溶性

毒物劇物取締法:

アクリル酸

99 %

医薬用外劇物, 毒物及び劇物指定令第2条劇物

アクリル酸

労働安全衛生法

通知対象物

アクリル酸

労働安全衛生法

表示対象物

アクリル酸

化審法

優先評価化学物質

通し番号: 94

皮膚等障害化学物質等 (労働安全衛生規則第594条の2)

アクリル酸

BASF 安全データシート

日付 / 改訂: 30. 09. 2025

製品: ACRYLIC ACID CRUDE

バージョン: 10.0

(30041216/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 16.10.2025

化学物質名又は元素名	化学物質排出把握管理促進法 (2023年4月1日以降)		
	含有量 (%)	分類, 管理番号	政令名称
アクリル酸	99	第1種指定化学物質, 4	アクリル酸及びその水溶性塩

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

Marine Pollution Prevention Law (JP)

係数: 100

Y 類物質

もし、有害液体物質が、タンク洗浄もしくはバラスト排出により海に排出されるなら、有害液体物質は、海洋資源や人健康に災害を及ぼしたり、動物や海のその他の合法的使用に害を及ぼすと見なされる。従って、海洋環境への排出の質と量の制限は正当なことである。

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

Marine Pollution Prevention Law (JP)

任意の濃度に適用:

Y 類物質

もし、有害液体物質が、タンク洗浄もしくはバラスト排出により海に排出されるなら、有害液体物質は、海洋資源や人健康に災害を及ぼしたり、動物や海のその他の合法的使用に害を及ぼすと見なされる。従って、海洋環境への排出の質と量の制限は正当なことである。

その他の規則

もしも、このSDSの他の章に記載されていない法的情報がある場合には、この章に記載されます。

16. その他の情報

本品は工業用品質であり、記載または合意のないかぎり、用途は工業用のみとする。他の用途については、製造業者に問い合わせること。安全な取り扱いと保管についてはリクエストに応じて利用可能なパンフレットでカバーされている。

【JIS Z 7252/7253: 2019準拠】 本SDSに記載されていない必要項目は、情報が無いことを示す。

本SDSにおいて労働安全衛生法の通知対象物質の濃度が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含みます。

左余白の縦線は前バージョンからの改訂部分を示す。

本安全データシートに含まれるデータは、当社の最新の知識及び経験に基づいて製品を安全性基準の観点からのみ説明するものであり、製品の特性（製品規格）を説明するものではありません。また、当該製品が特定の目的に適した性能・特性を有しているか否かを判断するためのものでもありません。本製品の使用者は自己の責任において製品に関わる特許等の所有権を尊重し現行の法律及び規則を遵守して下さい。